

令和7年度  
「運営に関する計画」  
最終評価

大阪市立下新庄小学校

令和8年1月

(様式1)

大阪市立下新庄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

**【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】**

生活指導部会での情報共有や月別目標や学校安心ルールに基づいた規範意識の向上の向上への取り組みと共に、生活指導部を中心とした安心・安全な学校づくりへの取り組みを進めることができた。学期ごとのいじめアンケートから認知したいじめについては、丁寧に聞き取りを行いその都度解決していくことで、年度目標は達成できている。しかし、新たないじめの訴えが出てくるものがあるのも事実である。普段から学級の様子を見守り、見逃さないように心がけるとともに問題行動に対しても生活指導部会やスクリーニング会議で共通理解を図り一貫した対応ができるよう引き続き取り組みを進めていくことが必要である。また、今後はいじめの早期発見や早期解決に向けて、スクールライフノートを活用し、学校全体でその活用法や対応の統一を考えていく必要がある。

不登校の児童に関しては、不登校の児童の割合を毎年前年度より減少させることができていたが、今後も引き続き関係諸機関とも連携しながら、前年度不登校児童の改善をめざしていきたい。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

学力向上への取り組みについては、チャレンジタイムや年間を通じた計画的な反復練習を通じて、基礎・基本の学力の定着を図る取り組みを進めることができた。チャレンジタイムでのプリント学習や学習教材データの活用、一人一台パソコンのデジタルドリルの活用など基礎・基本の定着に特化し、学力の底上げを行ってきた。それでもなお定着が厳しい児童には休み時間や放課後に個別指導を行った。その結果、小学校学力経年調査における正答率が受験対象の全学年で市平均より高く、また同一の母集団で比較しても学力の定着が確認でき目標を達成することができた。学力向上には、学習意欲の向上も大切な要因となる。昨年度まで研究教科を国語科とし、読み取る力・応用する力について一定の成果を得ることができた。今後は、系統立てた取り組みを進め、すべての教科において引き続き対話的学びを取り入れていく必要がある。コロナ禍の影響によりここ数年体力の低下が見られた。体力の向上について、休み時間や体育の授業の中で積極的に体を動かすことのできる時間の確保や学年スポーツ大会を企画するなど、運動に興味・関心が高まる工夫を取り入れ進めてきた結果、昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査等結果の体力合計点においては、大阪市・全国を共に上回った。しかし校内アンケートにおける「運動することが好き」と最も肯定的に回答する児童の割合は昨年度よりも減少しており目標を達成することはできなかった。引き続き、運動の楽しさにふれあうことのできる機会をもてる取り組みを進めていくことで「運動することが好き」と思える児童を増やしていきたいと考える。

**【学びを支える教育環境の充実】**

学習者用端末の利用率は上がったが、全体的には「心の天気」や「ナビマ」などの使用頻度が高く、対話的で深い学びにつながる有効的活用には至っていない。今後は、協働的な学びをめざしICT機器の有効活用を進めていきたい。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

R4 : ③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2%  
R5 : ③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9%  
R6 : ③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%  
R7 : ③91.7% ④69.4% ⑤94.4% ⑥94.4% Ave 87.5%

○毎年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を毎年、前年度より減少させる。

R3: 0.62% R4: 2.73%  
R5 (中間) : 3.20% R5 (年度末) : 3.62%  
R6 (中間) : 2.06% R6 (年度末) : 3.05%  
R7 (中間) : 1.38% R7 (年度末) : 1.38%

○毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

R3: 0.0% R4: 0.0%  
R5 (中間) : 0.0% R5 (年度末) : 0.0%  
R6 (中間) : 1.14% R6 (年度末) : 0.57%  
R7 (中間) : 1.25% R7 (年度末) : 1.25%

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を55%以上にする。

経年調査 : R4 : ③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1%  
経年調査 : R5 : ③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%  
経年調査 : R6 : ③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%  
経年調査 : R7 : ③44.4% ④38.9% ⑤48.1% ⑥47.2% Ave 44.7%

校内調査 : R4 (中間) : 44.4% R4 (年度末) : 45.3%  
校内調査 : R5 (中間) : 42.1% R5 (年度末) : 40.9%  
校内調査 : R6 (中間) : 51.1% R6 (年度末) : 50.2%  
校内調査 : R7 (中間) : 51.7% R7 (年度末) : 48.2%

○令和7年度の全国・学力学習状況調査の平均正答率5割以下の児童を令和3年度より4ポイント減少させる。

R4 : 国語 46.2% 算数 46.2%  
R5 : 国語 46.2% 算数 48.9%  
R6 : 国語 45.6% 算数 45.6%  
R7 : 国語 16.7% 算数 29.2%

○小学校の学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な好きと回答する児童の割合を85%以上にする。

R4 : ③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0%

R5 : ③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%

R6 : ③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%

R7 : ③75.0% ④58.3% ⑤70.4% ⑥80.6% Ave 71.1%

### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して学習をしている」の項目について「週1回以上」と答える児童の割合を80%にする。

R4 (中間) : 69.6% R4 (年度末) : 72.7%

R5 (中間) : 84.3% R5 (年度末) : 86.2%

R6～「心の天気やナビマなどで、学習者用端末（一人一台端末）を活用して学習をしていますか」

R6 (中間) : 94.0% R6 (年度末) : 93.0%

R7 (中間) : 91.3% R7 (年度末) : 92.2%

○学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設定する。

R4: 夏季休業中3日、それ以外の休業期間2日

R5: 夏季休業中3日、それ以外の休業日期間2日

R6: 夏季休業中3日、それ以外の休業日期間0日

R7: 夏季休業中4日、それ以外の休業日期間1日

○時間外勤務については、月45時間超え勤務の教職員数を6名以下に減らす。

R4: ④6名⑤8名⑥12名⑦0名⑧0名⑨7名⑩6名⑪4名⑫2名⑬0名⑭1名⑮1名

R5: ④8名⑤7名⑥8名⑦3名⑧0名⑨7名⑩6名⑪5名⑫5名⑬2名⑭5名⑮4名

R6: ④6名⑤4名⑥3名⑦4名⑧0名⑨3名⑩5名⑪3名⑫3名⑬3名⑭3名⑮2名

R7: ④2名⑤1名⑥1名⑦1名⑧0名⑨0名⑩2名⑪0名⑫0名⑬1名⑭2名⑮3名

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小学校）

○小学校経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

R4 : ③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2%

R5 : ③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9%

R6 : ③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%

R7 : ③91.7% ④69.4% ⑤94.4% ⑥94.4% Ave 87.5%

○年度末の校内調査において、不登校の児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R3: 0.62% R4: 2.73%

R5（中間）：3.20% R5（年度末）：3.62%

R6（中間）：2.06% R6（年度末）：3.05%

R7（中間）：1.38% R7（年度末）：1.38%

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

R3: 0.0% R4: 0.0%

R5（中間）：0.0% R5（年度末）：0.0%

R6（中間）：1.14% R6（年度末）：0.57%

R7（中間）：1.25% R7（年度末）：1.25%

#### 学校園の年度目標

○令和7年度の校内調査の「学校のきまりを守っていますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

R4（中間）：94.8% R4（年度末）：96.0%

R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0%

R6～「学校のきまりを守ることができていますか」

R6（中間）：91.4% R6（年度末）：90.3%

R7（中間）：91.7% R7（年度末）：89.9%

○校内アンケートの「学校は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。

R4（中間）：91.3% R4（年度末）：92.4%

R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0%

R6（中間）：94.0% R6（年度末）：96.1%

R7（中間）：91.7% R7（年度末）：96.1%

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。

経年調査：R4：③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1%

経年調査：R5：③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%

経年調査：R6：③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%

経年調査：R7：③44.4% ④38.9% ⑤48.1% ⑥47.2% Ave 44.7%

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比をいずれの学年も上回る。

**R4国語：④99.8→100.8 (1.0) ⑤103.9→104.5 (0.6) ⑥100.3→101.6 (1.3)**  
**R4算数：④100.2→100.6 (0.4) ⑤104.6→103.6 (▲1.0) ⑥101.6→102.1 (0.5)**

(対大阪市 平均正答率)R5国語：③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9  
 (対大阪市 平均正答率)R6国語：③102.3 ④102.8 ⑤103.1 ⑥102.0  
 (対大阪市 平均正答率)R7国語：③99.9 ④102.1 ⑤103.3 ⑥103.5  
 (対大阪市 平均正答率)R5算数：③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8  
 (対大阪市 平均正答率)R6算数：③100.9 ④103.8 ⑤103.7 ⑥101.0  
 (対大阪市 平均正答率)R7算数：③95.4 ④99.0 ⑤102.3 ⑥101.7

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。

**経年調査：R4：③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0%**  
**経年調査：R5：③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%**  
**経年調査：R6：③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%**  
**経年調査：R7：③75.0% ④58.3% ⑤70.4% ⑥80.6% Ave 71.1%**

#### 学校園の年度目標

○令和7年度の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。

**R4（中間）：94.1% R4（年度末）：96.0%**  
**R5（中間）：93.5% R5（年度末）：95.3%**  
**R6（中間）：93.2% R6（年度末）：93.8%**  
**R7（中間）：94.0% R7（年度末）：96.5%**

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の53%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

**R6 学習者用端末活用率（月平均）5月71.5%、6月80.3%、7月83.1%、8月82.4%**  
**9月81.9%、10月77.0%、11月75.5%、12月80.0%**  
**1月80.6%、2月80.4%、3月88.4%**

**80%以上の日数割合：5月33.3%、6月73.7%、7月92.3%、8月75.0%**  
**9月63.2%、10月59.1%、11月57.9%：12月56.3%**  
**1月62.5%、2月44.4%、3月92.3%**      **年間達成率（月平均）58.4%**

**R7 学習者用端末活用率（月平均）：5月90.6%、6月92.7%、7月94.0%、8月90.8%**  
**9月92.8%、10月93.0%、11月93.4%：12月92.1%**  
**1月%、2月%、3月%**

**80%以上の日数割合：5月95%、6月100%、7月100%、8月100%**  
**9月90.0%、10月95.5%、11月93.8%：12月100%**  
**1月%、2月%、3月%**      **年間達成率（月平均）%**

○地域学校協働本部やコミュニティースクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこないましたか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を94%以上にする。

**R4（中間）：81.8% R4（年度末）：91.7%**

《学校アンケート》地域の人と取り組む活動（授業）に参加するのは楽しいですか。

**R5（中間）：88.1% R5（年度末）：92.5%**

《学校アンケート》学校は、地域・保護者のかたと取り組む活動・授業を行っていますか。

**R6（中間）：88.1% R6（年度末）：93.8%**

**R7（中間）：94.3% R7（年度末）：92.2%**

### 3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は中期目標の最終年度に当たっており、すべての項目において目標達成をめざして取り組んできたが、【安全・安心な教育の推進】で1項目、【未来を切り拓く学力・体力の向上】で2項目目標を下回る結果となった。

【安全・安心な教育の推進】の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合が学校としては過去最高であったものの目標の90%を下回った。各学年における経年変化の状況も注視しながら、自他共の人権が尊重される集団づくりに継続して取り組む必要があると感じている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にするに対しては、すべての学年において50%を下回った。基礎的な学習の定着に取り組み、学力の向上に確実につけてきたが、今後はさらに対話的で深い学びを児童自身に実感させられるような授業づくり、授業力の向上にさらに取り組む必要がある。

また、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な好きと回答する児童の割合を85%以上にするに対しても、令和5年度以降は経年変化では学年が上がるにしたがって数値が下がる傾向が見られる。運動に親しめるような取組を行ってきているが、十分とは言えず、今後の取組を改めて見直す必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】では、3項目すべてにおいて目標を達成し、「心の天気やナビマなどで、学習者用端末（一人一台端末）を活用して学習をしていますか」では92.2%の児童が学習していると回答している通り、今年度日常的な端末活用を大幅に進めることができた。

また、「時間外勤務については、月45時間超え勤務の教職員数を6名以下に減らす」では、最終年度の今年度末は1名まで減らすことができた。業務内容の平準化にも取り組んできたが、自宅に端末を持ち帰り仕事をする教職員もおり、引き続き業務内容の見直しや業務量の縮減を図っていく必要がある。今後もひとりひとりの子どもたちに寄り添う時間の確保、働きやすく働きがいのある教育現場の実現をめざし、学びを支える教育環境の充実に取り組んでまいりたい。

中期目標達成に向けた目標別シートにおいては、昨年度末の最終評価における数値が大変高く、今年度はその数値を上回る目標を設定した。そのため全体を通して少しの差で目標を達成できなかった項目が多く出ており、達成状況にC評価がついている項目が目立つ。しかし、全般を通して各調査の結果の数値は高く、児童のがんばりは大いに認められる結果が出ている。

不登校については、数値上では目標を達成したものの個々における厳しい状況は続いている。それぞれの児童の状況に応じた丁寧な対応を進めており、今後も家庭との連携も深めながら不登校の状況が改善できるように進めていきたい。いじめについての意識は、経年調査においてこれまでで一番良い結果が出ている。

大多数の児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」という意識を持っている。今後も、「いじめについて考える日」に加え、全教職員が鋭敏な人権感覚を備え、児童全員に寄り添っていきたい。学力面については、指標の対象となっている国語と算数において、高学年で全市の平均を超えている。児童が毎日の学習で身に着けた力をしっかりと発揮した結果である。4年生は算数、3年生は国語算数ともに全市の平均を下回っている。引き続き基礎学力の定着の徹底に取り組むとともに、今後は個別最適な学びを通して児童が学ぶ楽しさや喜びを感じる学習を進めていきたい。

今年度も1年間を通して地域の皆様のお力をお借りして充実した取り組みを進めることができた。毎日の見守り活動や地域とのふれあい活動、絵本の読み聞かせ、地域行事など、様々な活動で児童と地域の皆さんとのつながりができている。今後も、連携を深められるよう取り組んでいきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○<b>小学校学力経年調査</b>における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>R4：③91.4% ④84.9% ⑤83.3% ⑥85.2% Ave 86.2%</b>  <b>R5：③81.0% ④94.3% ⑤77.6% ⑥66.7% Ave 79.9%</b>  <b>R6：③84.2% ④87.7% ⑤91.9% ⑥81.8% Ave 86.4%</b>  <b>R7：③91.7% ④69.4% ⑤94.4% ⑥94.4% Ave87.5%</b></p> <p>R4~R6まで</p> <p>○<b>小学校学力経年調査</b>における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>R4：③100.0% ④96.2% ⑤95.8% ⑥96.3% Ave 97.0%</b>  <b>R5：③86.2% ④100.0% ⑤92.2% ⑥88.9% Ave 89.3%</b>  <b>R6：③100.0% ④94.7% ⑤100.0% ⑥95.5% Ave 97.6%</b></p> <p>R7～</p> <p>○<b>校内アンケート</b>における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>R6（中間）：①86.0%②94.3%③81.1%④78.3%⑤86.1%⑥82.9% Ave 84.2%</b>  <b>R6（年度末）：①87.7%②97.1%③86.8%④77.8%⑤94.4%⑥68.4% Ave 84.8%</b>  <b>R7（中間）：①93.0%②91.7%③89.2% ④86.1% ⑤81.6% ⑥90.0% Ave 88.7%</b>  <b>R7（年度末）：①97.7%②94.6%③72.2% ④82.9% ⑤87.2% ⑥97.4% Ave 89.5%</b></p> <p>○<b>校内アンケート</b>における「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>R4（中間）：94.8% R4（年度末）：96.0%</b>  <b>R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0%</b>  <b>R6（中間）：91.4% R6（年度末）：90.3%</b>  <b>R7（中間）：91.7% R7（年度末）：89.9%</b></p> <p>○<b>校内アンケート</b>における「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>R4（中間）：91.3% R4（年度末）：92.4%</b>  <b>R5（中間）：89.7% R5（年度末）：89.0%</b></p>	B

<p style="text-align: right;"><b>R6 (中間) : 94.0% R6 (年度末) : 96.1%</b> <b>R7 (中間) : 91.7% R7 (年度末) : 96.1 %</b></p>	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p style="text-align: center;">進捗 状況</p>
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールライフノートやいじめアンケートを活用して、いじめの早期発見、早期解決に取り組み、いじめはどんな理由があってもいけないことであるという態度を育てる。</li> <li>・「いじめについて考える日」に、児童朝会で話を聞いた後、感想を書くなど学年に応じた取り組みを行う。</li> </ul> <hr/> <p>指標 校内アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 <b>R7 (中間) : 91.7% (最終) 93.0%</b></p>	<p style="text-align: center;">A</p>
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に取り組む活動や地域・ゲストティーチャーと共に取り組む活動、異学年交流や体験的な活動、学校行事など児童が主体的に取り組む活動を実施し、魅力ある学校づくりを通して学校が楽しいと思う児童を増やす。</li> </ul> <hr/> <p>指標 校内アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>R4 (中間) : 91.3% R4 (年度末) : 92.4%</b> <b>R5 (中間) : 89.7% R5 (年度末) : 89.0%</b> <b>R6 (中間) : 94.0% R6 (年度末) : 96.1%</b> <b>R7 (中間) : 91.7% (年度末) : 96.1%</b></p>	<p style="text-align: center;">C</p>
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月別目標や学校安心ルールをもとに学校のきまりを守ることを周知し、安全に安心して学校生活を送ることができる環境づくりに取り組む。</li> <li>・委員会での活動の中で、学校のきまりについての呼びかけを行うなど、学校のきまりについて意識して学校生活を送ることができるような取り組みを実施する。</li> </ul> <hr/> <p>指標 校内アンケートにおける「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>R4 (中間) : 94.8% R4 (年度末) : 96.0%</b> <b>R5 (中間) : 89.7% R5 (年度末) : 89.0%</b> <b>R6 (中間) : 91.4% R6 (年度末) : 90.3%</b></p>	<p style="text-align: center;">C</p>

	<b>R7 (中間) : 91.7% (年度末) : 89.9%</b>
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年や学級でのグループ活動や行事、道徳や人権教育を通して、人と交流しながら互いを認めあい、思いやる心を育てる。</li> </ul>	
<p>指標 校内アンケートにおける「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を86%以上にする。</p> <p><b>R6 (中間) : ①86.0%②94.3%③81.1%④78.3%⑤86.1%⑥82.9% Ave 84.2%</b>  <b>R6 (年度末) : ①87.7%②97.1%③86.8%④77.8%⑤94.4%⑥68.4% Ave 84.8%</b></p> <p><b>R7 (中間) : ①93.0%②91.7%③89.2% ④86.1% ⑤81.6% ⑥90.0% Ave 88.7%</b></p> <p><b>(年度末) : ①97.7%②94.6%③72.2%④82.9%⑤87.2%⑥97.4% Ave.89.5%</b></p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 校内アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は93.0%で、目標の90%を上回った。スクールライフノートでの取り組みや、いじめアンケートを活用していじめの早期発見・早期解決に取り組んでいることや、「いじめについて考える日」に児童朝会后、学年に応じた取り組みをした成果だと考える。</p> <p>② 校内アンケートにおける「学校は楽しいですか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は96.1%と目標の97%を少し下回ったが、中間評価の88.7%からは大幅に上昇した。地域・ゲストティーチャーと取り組む活動や、体験的な活動、児童が主体的に取り組む学校行事の実施などを計画的に行うことができた。</p> <p>③ 校内アンケートにおける「学校のきまりを守ることができていますか」に対して、肯定的に回答した児童は89.9%と目標の92%を上回ることができなかった。学年別にみると、目標を上回った学年も複数あった。</p> <p>④ 校内アンケートにおける「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答した児童は89.5%で、目標の86%を上回った。</p>	
次年度（後期）への改善点	
<p>① 今後も、スクールライフノートやいじめアンケートを活用し、いじめの早期発見・早期解決、指導を継続して実施していく。また、これからも日頃からいじめにつながる発言や行動に対しての指導を徹底していき、いじめはどんな理由があってもいけないことであるという意識を高めていく。</p> <p>② 引き続き、校外学習や地域・ゲストティーチャーと取り組む活動や異学年交流などの体験的な学習を計画的に実施していく。また、普段の学校生活の中でも児童が安心して過ごせるようにクラス環境を整え、児童が楽しさを味わうことができる授業づくりや学級づくりを行っていく。</p> <p>③ 今年度行ったように、アンケートなどを活用して児童が定期的に自分の行動を振り返る機会を設け、学校のきまりを守ることに對しての意識を高めていく。また、委員会活動を通して、学校のきまりについての呼びかけを行うなどの取り組みを引き続き実施していく。</p> <p>④ 引き続き、異学年交流や学級・学年でのグループ活動、委員会活動や行事などを通して、人</p>	

と交流しながら自己肯定感や自己有用感を高められるように声掛けをしていく。また、学級で、これからもいいところ見つけなどの取り組みを継続し、子どもたち同士でもお互いを認め合える環境づくりを行っていく。

(様式2)

大阪市立下新庄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」にと回答する児童の割合を55%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>R4 : ③51.4% ④47.2% ⑤31.3% ⑥42.6% Ave 43.1%</b>  <b>R5 : ③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%</b>  <b>R6 : ③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%</b>  <b>R7 : ③48.1% ④38.9% ⑤44.4% ⑥47.2% Ave 44.7%</b></p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比をいずれの学年も上回る。</p> <p style="text-align: right;"><b>(対大阪市 平均正答率)R5国語 : ③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9</b>  <b>(対大阪市 平均正答率)R5算数 : ③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8</b>  <b>(対大阪市 平均正答率)R6国語 : ③102.3 ④102.8 ⑤103.1 ⑥102.0</b>  <b>(対大阪市 平均正答率)R6算数 : ③100.9 ④103.8 ⑤103.7 ⑥101.0</b>  <b>(対大阪市 平均正答率)R7国語 : ③99.9 ④102.1 ⑤103.3 ⑥103.5</b>  <b>(対大阪市 平均正答率)R7算数 : ③95.4 ④99.0 ⑤102.3 ⑥101.7</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>R4 : ③85.7% ④71.7% ⑤60.4% ⑥50.0% Ave 67.0%</b>  <b>R5 : ③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%</b>  <b>R6 : ③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%</b>  <b>R7 : ③70.4% ④58.3% ⑤75.0% ⑥80.6% Ave71.7%</b></p> <p>○令和6年度の校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>R4 (中間) : 94.1% R4 (年度末) : 96.0%</b>  <b>R5 (中間) : 93.5% R5 (年度末) : 95.3%</b>  <b>R6 (中間) : 93.2% R6 (年度末) : 93.8%</b>  <b>R7 (中間) : 94.0% R7 (年度末) : 96.5%</b></p>	<p>B 2.5</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識に関する理解力や活用力を高め、対話的深い学びに向けての授業改善に取り組む。 (様々な問題に取り組む機会を作ったり、研究教科だけでなく他教科でも対話を取り入れたりする。)</li> </ul> <hr/> <p>指標 全員授業の実施とともに学年の授業実践に取り組み、校内調査や<b>学力経年調査</b>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>校内調査：R5（中間）：42.1% R5（年度末）：40.9%</b>  <b>校内調査：R6（中間）：51.1% R6（年度末）：50.2%</b>  <b>校内調査：R7（中間）：51.7% R7（年度末）：48.2%</b></p> <p style="text-align: center;"><b>経年調査：R5：③50.0% ④40.0% ⑤37.3% ⑥33.3% Ave 40.2%</b>  <b>経年調査：R6：③34.2% ④57.9% ⑤45.9% ⑥40.9% Ave 44.7%</b>  <b>経年調査：R7：③48.1% ④38.9% ⑤44.4% ⑥47.2% Ave44.7%</b></p>	C 2.3
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャレンジタイムや年間を通じた計画的な反復練習を通じて、継続的な基礎基本の学力の定着を図り、学力の向上に取り組む</li> </ul> <hr/> <p>指標 <b>小学校学力経年調査</b>における国語および算数の標準化得点をいずれの学年も上回るようにする。 (単元評価問題や音読、漢字、問題集、学習教材データ、ICT機器の活用を図る)</p> <p style="text-align: center;"><b>R5国語：③101.9 ④104.5 ⑤101.0 ⑥102.9</b>  <b>R6国語：③106.7 ④104.3 ⑤106.2 ⑥100.6</b>  <b>R7国語：③99.9 ④102.1 ⑤103.3 ⑥103.5</b></p> <p style="text-align: center;"><b>R5算数：③103.8 ④101.6 ⑤101.1 ⑥101.8</b>  <b>R6算数：③100.3 ④113.3 ⑤114.8 ⑥101.2</b>  <b>R7算数：③95.4 ④99.0 ⑤102.3 ⑥101.7</b></p>	C 2.5
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動することの楽しさにふれあう機会を確保し、運動することに興味・関心を高めることができるような取り組みを実施する。</li> </ul> <hr/> <p>指標 <b>小学校学力経年調査</b>や校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p style="text-align: center;"><b>校内調査：R5（中間）：67.8% R5（年度末）：70.1%</b>  <b>校内調査：R6（中間）：68.8% R6（年度末）：72.8%</b>  <b>校内調査：R7（中間）：65.3% R7（年度末）：66.5%</b></p> <p style="text-align: center;"><b>経年調査：R5：③86.2% ④94.3% ⑤92.2% ⑥75.6% Ave 87.1%</b></p>	C 2.0

<p>経年調査：R6：③55.3% ④75.4% ⑤89.2% ⑥70.5% Ave 72.6%          経年調査：R7：③70.4% ④58.3% ⑤75.0% ⑥80.6% Ave 71.7%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】          ・食育の授業や栄養指導の授業を通して、自らの食生活を振り返り、規則正しい生活を身につけることができるような取り組みを実施する。</p>	
<p>指標 校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合を94%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"> <b>R5 (中間) : 93.5%</b>    <b>R5 (年度末) : 95.3%</b>  <b>R6 (中間) : 93.2%</b>    <b>R6 (年度末) : 93.8%</b>  <b>R7 (中間) : 94.0%</b>    <b>R7 (年度末) : 96.5%</b> </p>	A 3.5
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が、校内調査では、48.2%で目標の55%には達していなかった。また、経年調査でも44.7%で、どの学年も、目標の55%に達することができなかった。</p> <p>② チャレンジタイムでは、学年に応じて基礎基本の学力定着のための取り組みを行ってきた。一人一台のパソコンを活用し、ナビマのほか、学年に応じた計算トレーニングなど各児童の学力に合わせた学習を家庭学習や隙間時間などに効果的に取り組んできた。経年調査の標準化得点を国語では、3学年は上回ることができた。算数は、2学年が上回ることができた。</p> <p>③ 「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が、校内調査では全体の66.5%で、中間評価よりは上回ることができたが、目標の85%は達成することができなかった。経年調査でも71.7%で、どの学年も目標の85%を上回ることができなかった。なわとび週間やかけあし週間をきっかけに積極的に運動をする児童も増えており、カードの使用や表彰などにより児童の活動意欲も高まったが、まだ、運動に苦手意識をもつ児童も見られる。</p> <p>④ 校内調査の「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的な回答をする児童の割合が全体の96.6%で目標の94%を上回った。栄養教諭による食育指導や、委員会による朝食カードの取り組みなどの成果が表れていた。</p>	
次年度(後期)への改善点	

- ① 肯定的に「思う」と感じている児童は、昨年度よりも増えてきているが、最も肯定的な「思う」と回答した児童がまだ少ない。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」とはどういうことを指すのか、具体的な例を挙げて児童が理解した上でアンケートをとる必要がある。また、教材研究や授業改善に取り組み、研究教科以外の教科でもさらに、話し合い活動を取り入れたり、児童が話し合い活動において自分の考えが深まったと実感したりできるように支援していく。
- ② 次年度もチャレンジタイムや、反復練習を計画的に取り組み、児童が学年が上がっても困らないように習慣をつけ、基礎基本の定着を図っていく。また、児童が意欲的に取り組みたくなるような教材を提示し、一人一台パソコンの学校、家庭での活用をさらに高めていく。
- ③ 低学年に比べて、中・高学年児童の運動への意欲が低かった。パソコンに触れる時間が増えたり、運動場に出られないことも多かったなどの原因が考えられるので、対策を考える必要がある。また、きょうだい学年で遊ぶ場の設定や、集会委員会の活動などを通して全校児童で運動ができる場の設定をしていく。また、学年やクラスでも体育の授業の工夫やクラス遊びを通して、児童の運動への意欲を高める取り組みを行っていく。
- ④ 「朝ごはん・給食完食キャンペーン」の取り組みにより、朝ごはんを食べてくる意識が高まった児童が多かった。今後も、全員が朝食を当たり前毎日食べられるように、家庭への啓発や、委員会などによる取り組みを継続していく。また、簡単に用意できて栄養バランスのよい朝食のレシピの公開などに取り組むなど、朝食の内容も充実するようにしていく。また、給食を通して、栄養のバランスの大切さを引き続き伝えていく。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の53%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕</p> <p><b>R6 学習者用端末活用率（月平均）：5月71.5%、6月80.3%、7月83.1%、8月82.4%、9月81.9%、10月77.0%、11月75.5%、12月80.0%、1月80.6%、2月80.4%、3月88.4%</b></p> <p><b>80%以上の日数割合：5月33.3%、6月73.7%、7月92.3%、8月75.0%、9月63.2%、10月59.1%、11月57.9%、12月56.3%、1月62.5%、2月44.4%、3月92.3%</b>      <b>年間達成率（月平均）58.4%</b></p> <p><b>R7 学習者用端末活用率（月平均）：5月90.6%、6月92.7%、7月94.0%、8月90.8%、9月92.8%、10月93.0%、11月93.4%、12月92.1%、1月%、2月%、3月%</b></p> <p><b>80%以上の日数割合：5月95%、6月100%、7月100%、8月100%、9月90.0%、10月95.5%、11月93.8%、12月100%、1月%、2月%、3月%</b>      <b>年間達成率（月平均）%</b></p> <p>○教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を88%以上にする。 〔1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。〕</p> <p><b>R7 2月時点 達成率 87.5%</b> <b>R8 1月時点 達成率 100%</b></p> <p>○校内調査の「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。</p> <p><b>R4（中間）：85.0% R4（年度末）：88.5%</b> <b>R5（中間）：88.9% R5（年度末）：87.0%</b> <b>R6（中間）：88.9% R6（年度末）：85.6%</b> <b>R7（中間）：79.6% （年度末）：79.0%</b></p> <p>○「地域学校協働本部やコミュニティースクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこないましたか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を94%以上にする。</p> <p><b>R4（中間）：81.8% R4（年度末）：91.7%</b></p> <p>≪学校アンケート≫地域の人と取り組む活動（授業）に参加するのは楽しいですか。 <b>R5（中間）：88.1% R5（年度末）：92.5%</b></p> <p>≪学校アンケート≫学校は、地域・保護者のかたと取り組む活動・授業を行っていますか。</p>	<p>C</p>

R6 (中間) : 88.1% R6 (年度末) : 93.8%  
 R7(中間) : 94.3% (年度末) : 92.2%

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台の学習端末の活用に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の53%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>指標 校内調査の「心の天気やナビマなどで学習者用端末を活用している」の項目について肯定的に回答する児童の割合を94%以上にする。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回のゆとりの日の設定や学校閉庁日の計画的な設定を通して教職員の働きやすい環境を整える。</li> </ul> <p>指標 ゆとりの日については、週1回設定する。</p> <p>学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、1日以上設定する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動の推進に向けて読書環境の整備を行い、読書習慣の形成に取り組み読書好きな子どもの育成に取り組む。(図書委員会を中心として読書への関心を高める取り組みを進める。図書室開放・図書の紹介等)</li> </ul> <p>指標 校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を86%以上にする。</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向9、家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>社会福祉協議会や地域活動協議会などの地域の関係諸団体や地域ボランティア、地域人材を活用し、児童と地域のつながりができる取り組みを実施する。</p> <p>指標 地域学校協働本部やコミュニティースクールなどの仕組みを生かして、学校の美化や登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との共同による活動をおこなう。」校内調査の「学校は、地域・保護者の方と取り組む活動・授業を行っていますか。」の項目について肯定的に回答する児童・生徒の割合を94%以上にする。</p>	C

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### 取組内容①

端末活用について肯定的に回答した児童は 92.2%で、目標の 94%にはわずかに届かなかった。

しかし、「心の天気」「ナビマ」「連絡帳」など、学校生活のさまざまな場面で端末を使用する習慣が定着し、ICT 活用は学校全体で広がりを見せている。調べ学習や提出物作成、健康観察、長期休暇の宿題など、多様な活用場面が生まれ、児童の操作スキルも向上した。教師側も ICT 環境の整備が進み、ICT を授業内で活用することができてきている。

一方、端末活用が特定の活動に偏り、「学習の見通しを持つ」「振り返りを記録する」「思考整理に用いる」といった“学びを深める活用”は十分に広がっていない。また、学級間での活用頻度の差や教員の ICT スキル差も依然大きく、結果に影響したと考えられる。心の天気の入力は定着してきたが、遅刻児童が入力しにくいなど、活用機会の差も見られた。視聴覚部を中心に到達スキルの明確化を進めつつあるものの、学校全体の共通理解は今後の課題である。

#### 取組内容②

週 1 回の「ゆとりの日」、夏季休業中 3 日以上・その他の休業中 1 日以上の学校閉庁日は設定され、制度としては実施できた。昨年度より退勤時刻が早まり、放課後のゆとりが増えたという声も多く、働きやすさという点では一定の成果が見られた。

しかし、業務量そのものは十分に軽減されておらず、家庭に仕事を持ち帰る教職員も依然として存在する。制度整備は進んでいるが、実態の改善にはまだ取り組みが必要である。

#### 取組内容③

「読書が好き」と回答した児童は 79%で、目標の 86%には届かなかった。

学校としては、朝の読書、図書室開放、地域の方による読み聞かせ、読書カードや図書館司書の読み聞かせ、本を読む時間の設定など、継続した取り組みを行ってきた。これらにより読書習慣が定着した児童も多く見られた。

しかし、「読書が好き」という実感につながる仕掛けとしては十分ではなかった。児童が自分の興味に合う本と出会う機会が限られていたこと、読書を共有する経験が不足していたこと、読書が学習や生活と結びつく体験が少なかったことが課題として挙げられる。活字への苦手意識が強い児童も一定数存在し、学級での声かけが届きにくい状況もあった。

読書カードについては、1 学期には約 20%の児童が一度も活用しておらず、2 学期に改善を試みたものの大きな変化は見られなかった。読書カードの活用で、進んで本を借りる児童は増えたが、「スタンプ目的で読まずに返す」例もあり、読書に親しむところまでは十分至っていない。また、調べ学習が端末中心となり、読書の必要性を感じにくくなっている傾向も見られた。

#### 取組内容④

肯定的回答は 92.2%で、わずかに目標には及ばなかったが、見守り活動、地域の方との行事など、多くの協力が得られたことは児童にも実感されている。

一方で、児童にとって「地域の誰が何をしてくれているのか」「どんな意味がある活動なのか」が見えにくい場面もあった。活動が常態化し、価値を意識しないまま参加しているケースや、活動後の振り返りや感謝を伝える機会が十分でなかったことが要因として考えられる。また、アンケートの質問が児童には分かりづらかった可能性や、3 学期に活動が集中しアンケート時期と合わなかった点も影響した。

次年度（後期）への改善点

#### 取組内容①

次年度は、端末を、学習を深めるためのツールとして活用する段階へと進めていくことが求められる。これまで定着してきた健康観察やナビマ、調べ学習だけでなく、学習の見通しをもつ、振り返りの記録、考えの整理といった学習プロセスに ICT を活用できるような場面を増やしたい。

また、学級間の活用差や教員のスキル差を縮めるために、教材や実践例の共有を進め、「作らずに使える」環境を整備することが必要である。さらに、各学年で身に付けたい端末を活用するスキルを明確にし、学期ごとに教職員で共通理解を図る場を設けることで、学校全体の方向性をそろえていく。

授業内での端末活用をさらに増やし、学習の一部として自然に ICT が位置づく環境づくりを進めることが次年度の重要な課題である。

#### 取組内容②

次年度は、制度としての「ゆとりの日」や学校閉庁日の設定を継続するだけでなく、教職員が実際にゆとりを感じられるよう、業務内容そのものを見直す必要がある。会議の効率化、役割分担の適正化、教材準備の共有化など、校内体制を改善することで、持ち帰り業務を減らし、校内で仕事を終わらせる環境づくりを進めたい。

また、時間割や行事の工夫により、授業時数を確保しつつ業務負担を軽減する仕組みを検討することも重要である。教職員が心身ともに健やかに働ける環境を整えることが、よりよい教育活動につながるため、働き方の改善を学校全体の課題として継続的に取り組んでいく必要がある。

#### 取組内容③

次年度は、児童が「本と出会い、読んでよかったと感じる体験」を増やすことが最優先となる。そのために、児童の興味や発達段階に応じた本を紹介する仕組みや、おすすめ本の展示など、本に触れるきっかけを意図的に作る必要がある。また、読んだ本を友達と共有したり感想を伝え合ったりする活動を充実させ、読書の楽しさを広げていきたい。

読書カードなどの取り組みについては、「量」よりも「質」を大切にできるよう運用方法を見直し、ただ借りるだけで終わらない仕組みを考える必要がある。活字への苦手意識がある児童には、短い読み物や絵本、読書の導入としての読み聞かせなど、段階的な支援を行うことが重要である。

さらに、調べ学習が端末中心になっている現状を踏まえ、教科の学習と読書をつなぐ取り組みを増やし、読書の必然性が生まれる学習構成を意識したい。ICT 活用が進む中でも、読書の価値が薄れないよう、バランスの取れた学習環境づくりを進めていく。

#### 取組内容④

次年度は、児童が地域の方々の存在や活動の意味をより深く理解できるよう、行事や授業の中で「どの地域の方が」「どのような思いで」関わっているかを丁寧に伝えていく必要がある。活動後には振り返りを行い、学びとして整理するとともに、地域の方への感謝を言葉にする時間を確保することで、協働の価値を実感しやすくする。

また、地域との活動を3学期に集中させず、できるだけ通年で分散するよう工夫し、児童が継続して地域を身近に感じられる機会をつくることが大切である。さらに、アンケートの質問をわかりやすい表現に見直すことで、実態をより正確に把握できるようにしていきたい。こうした取り組みを通じて、学校と地域が互いに支え合う関係をさらに深めていく。